

あのね、

福井市四ツ井 2-8-1
TEL 0776-53-6570
FAX 0776-53-6576
http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo-ryouiku/



冷たい冬の合間のよく晴れたクリスマス会の日、こども療育センターにもサンタクロースがやってきました。

リンリンリーン♪リンリンリーン♪

こども達の視線は一気にサンタさんに！

ひとりずつサンタさんから名前を呼んでもらい、プレゼントを受け取りました。にっこり嬉しそうなお子、怖くて固まっちゃった子、不思議そうにじっとサンタさんを見つめる子、お母さんの手を引っ張ってお母さんにプレゼントを受取ってもらおうとする子…。中身はおうちに帰ってからの楽しみ。

プレゼントをもらった後は、みんなで記念撮影。サンタさんと一緒にツリーの前で、「はい、チーズ。」

楽し思い出が、またひとつ増えました

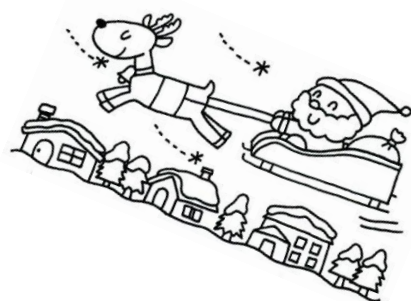


そして、6人のかわいい女神によるキャンドルサービス。

真っ暗の中、「きよしこのよる」の歌に合わせて、ひとりひとり手にしたペンライトをゆっくり左右に揺らし、静かに光を眺めました。



もう一つのお楽しみは、漢鼓（おとこ）さんによる和太鼓の演奏。迫力のある和太鼓と、初めて見る細長いオーストラリアの楽器、ディジュリドゥのお腹まで響く迫力ある演奏に聞き入りました。最後は、会場みんなでスズやタンバリンを持って、「ジングルベル」のセッションを楽しみました。



給食後には、クリームたっぷり、イチゴがのったクリスマスケーキをいただきました。

お手伝いに来てくださった、6名のボランティアのみなさん、ありがとうございました。

サンタさん、来年もまた、みんなのところに来てね～！！



ももくり外来のご紹介



～平成29年10月より開始しました！～

ねらい

- ☆発達がゆっくりなお子さんを小集団活動の中で発達を促します。
- ☆日常生活動作（着替えや食事など）について、友達の様子を見ながら、お子さんに合った方法などを保護者と一緒に考えて取り組みます。
- ☆保育園で行う運動を取り入れて、大集団では上手くできないことを運動の要素を段階付けて取り組みやすくしていきます。
- ☆保護者との経験を通して家庭で取り組めるように促します。



対象

- ・3歳～5歳（年少～年中）で日常生活動作（着替えや食事動作など）がまだ難しい方。
- ・体の使い方が不器用で保育園や体操教室では参加が難しい方。



スタッフは医師と作業療法士です。興味のある方は、担当作業療法士および担当医師にお尋ねください。

—平成29年度 療育研修会報告—

第2回 平成29年10月28日（土）

『自閉症スペクトラム児の偏食へのアプローチ』

講師：立山 清美氏（大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所講師 作業療法学）

なぜ食べられないかを、①口腔面（食べにくい・飲み込みにくい）、②感覚面（味・におい・食感・温度・音・見た目）、③認知面（慣れていない・見通しが持てない）から探る。好きな物についても上記の①②③の観点で分析する。そして、食べやすい大きさ、好きな味、食感など調理方法を工夫する。食べられる量だけ供する。決まった食器を使うなど、「こだわり」も利用する。ただし、強制せず、楽しい雰囲気、頑張りや認め。保護者のグループ討議では、「こうしたらうまくいったよ」「私もやってみよう」「時期もあるからあせらずにね」とおおいに盛り上がりました。（通園指導課 落谷）

第3回 平成29年11月11日（土）

『東日本大震災に学ぶ重症児(者)の災害支援について』

講師：田中 総一郎氏（あおぞら診療所ほっこり仙台 院長）

震災直後より被災地で地域生活支援活動を行われた実体験を通し、日頃からの災害時の備えや実際にいかすことのできる災害支援のあり方についてわかりやすくお話いただきました。また、手動式吸引器を参加者全員が実際に体験し、機種によって使い方の違いや操作について学ぶことができました。



「災害時の重症児者の状況を初めて知った。多くの方がこの状況を知れば、支援の幅が広がるとよくわかった。」「障害者の被害が一般の2倍ということに驚き、支援の必要性や普段からの対策の必要性も理解できました。」などのたくさんの感想をいただきました。（入所療育課 酒井）